

仲哀天皇

でま)す

【之】

熊襲叛之不朝貢

熊襲叛きて朝貢らず

04

父王既崩之

則自德勒津發之

父の王、既に崩(かむさ)りましぬ

則ち德勒津より發(た)ちて

冀獲白鳥養之於陵域之池

便從其津發之

冀はくは白鳥を獲て、陵域の池に養はむ

便ち其の津より發ちて

05

10

蘆髮蒲見別王視其白鳥而問之

從角鹿發而行之

蘆髮蒲見別王、其の白鳥を視て、問ひて

角鹿より發ちて行(いでま)して

故貢之

鯽魚即醉而浮之

故に貢(たてまつ)る

鯽魚(たひ)即ち酔ひて浮えぶ

雖白鳥而燒之則爲黑鳥

12

白鳥と雖ども燒かば黒鳥と爲る

興宮室于穴門而居之

宮室を穴門に興(た)てて居(おわ)します

仍強之奪白鳥而將去

仍りて強(あながち)に白鳥を奪いて將て去ぬ

13

自山鹿岬廻之入岡浦

山鹿岬より廻りて岡浦に入る

爰越人參赴之請焉

爰に越人參赴(まうき)て請す

熊罽奏之

熊罽奏して

07

即興行宮而居之

即ち行宮を興てて居(ま)します

天皇則禱祈之

天皇則ち禱祈(のみの)みたまひて

09

留皇后及百寮而從駕二三卿大夫及官人數百

自洞海入之

而輕行之

洞海より入りたまふ

皇后及び百寮を留めたまひて、駕に従へる二

三の卿大夫及び官人數百して輕(と)く行(い

時熊罽更還之

時に熊罥更た還りて

【者】

惶懼之

15

若能祭吾者

惶(お)ぢ懼(かしこま)りて

若し能く吾を祭りたまはば

參迎于穴門引嶋而獻之

其汝王之如此言而遂不信者

穴門の引嶋に參迎(もうむか)へて獻る

其れ汝王此の如く言ひて遂に信けたまはずは

15

其祭之

其れ祭りたまはむには

便登高岳遙望之大海

便ち高き岳に登りて、遙かに大海を望るに

朕周望之

朕周望すに

唯今皇后始之有胎

唯だ今皇后始めて有胎(はら)みませり

不得勝而還之

得勝(えか)ちたまはずして還ります

16

若百姓知之有懈怠者乎

若し百姓知らば、懈怠有らむか

17

大臣武内宿禰自穴門還之

大臣武内宿禰、穴門より還りて